別紙様式２

令和４年度　県立土浦第二高等学校自己評価表

目指す学校像	自律的で責任感のある人間として、多様な価値観をふまえ協働して活動し、現代社会を生きるための柔軟な思考力・判断力・表現力をもって、客観的に分析・考察することのできる人材を育成します。 １　未来に必要な資質・能力を身につけ、個々の学力の伸長と進路希望の実現を図る学校 ２　豊かな感性や人間としてよりよく生きていく力を高める学校 ３　保護者や地域と連携し、信頼される開かれた学校

昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
１　国公立大学の合格者数は、５年連続で１００人を超えた。今年度も継続する。また、国公立・私立難関大学の合格者についても前年度以上に増加を図る。さらに、生徒の進路希望実現のための方策を検討するとともに、生徒個々の学習意欲の向上と計画的な家庭学習時間の確保について重要性を説き、確立を図る。 ２　部活動参加率は85%と活発な活動が行われ、各種大会で優秀な成績を収めている。また、学校行事をはじめ、委員会やボランティア活動もより充実させていきたい。 ３　年間２回の保護者面談等を実施し、保護者との連携を図りながら生徒の指導に当たっている。本年度は授業公開やホームページを通して、さらなる情報発信を推進し、本校の教育活動に対して、保護者や地域関係者の協力や理解を目指す。	１　授業の充実と学習習慣の確立	・「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業の工夫・改善により、新しい時代に必要となる「学びに向かう力、人間性等の涵養、生きて働く知識及び技能の習得、未知の状況にも対応できる思考力、判断力、表現力等」の育成を図る。	A
		・ＩＣＴ環境を適切に活用した学習活動の充実を図る。突発的な臨時休業等による生徒の学びの保証に備えて、ＩＣＴ機器を用いた遠隔教育の充実を図る。	A
		・観点別評価を明確にして、年間指導計画に沿った授業を展開し、自学自習の習慣化を図り、自主学習時間を増加させる。自主学習時間の目安を、１年３時間、２年４時間、３年５時間とする。	A
		・担任と生徒の個別面談の推進（年間４回以上）。	A
		・全員参加による土曜課外の実施（55 分×３時間）	A
		・生徒一人一人の進路実現のために、平常日・長期休業中において、各学年・各教科の組織、計画的な課外の実施。	A
		・学習室・多目的室（19 時まで使用可）を開放し、よりよい学習環境を構築する。	A
	２　特別活動の充実と基本的生活習慣の確立	・ホームルーム・委員会・学校行事・部活動などの生徒の主体的活動を支援し、道徳的実践力を高める。	A
		・土浦二高生としての品格ある行動を確立させる。	A
		・遅刻指導等を通して、自律的で責任ある生活習慣を確立させる。	A
		・教室の清掃を始めとした校内美化活動を通して、奉仕の精神と豊かな心を育成する。	A
		・各学年ともにＨＲにおいて「キャリア・パスポート」を活用し、記録を用いた話し合い、意思決定により、生徒一人一人のキャリア形成に努める。	B
	３　異文化理解の推進	・国際交流活動、特に、平成 30 年度より実施している海外研修を継続的に推進する。	A
	４　保護者及び地域との連携の推進	・保護者面談を計画的に実施して情報を提供し、教育活動への理解と支援を促す。	A
		・魅力ある学校行事の実施に努め、保護者の積極的参加を促す。	B
		・ホームページの定期的更新により、教育活動等の情報を広く発信する。	A

		・地域資源の活用や高大連携の活動を充実させ、地域に発信する。	A
	5　働き方改革	・衛生委員会を中心に教職員の共通理解を図り、これまで慣例的に行ってきた業務、行事を見直し、必要性の低い業務を削減する。	A
		・家庭・地域と学校の役割分担を見直すために、家庭・地域への情報発信や積極的な関わりを推進し、意見を聴取して校務に反映する。	A
三つの方針		具体的目標	

三つの方針（スクール・ポリシー）	「育成を目指す資質・能力に関する方針」（グラデュエーション・ポリシー）	豊かな人間性、幅広い知識と柔軟な思考に基づく判断力・行動力を有し、変化の激しい社会を心豊かにたくましく生きる人材を育成する教育活動を通して、魅力と活力ある学校を目指す。 1　未来に必要な資質・能力を身につけ、個々の学力の伸長と進路希望の実現を図る学校。 2　豊かな感性や人間としてよりよく生きていく力を高める学校。 3　保護者や地域と連携し、信頼される開かれた学校。
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」（カリキュラム・ポリシー）	1　授業の充実を図り、知的好奇心や学習意欲を高め、自主的・能動的な学習習慣を確立させる。 2　組織的・系統的なキャリア教育を充実させ、自己探求や自己実現に努める生徒を育てる。 3　特別活動等への積極的な参加を促進し、豊かな感性や道徳的実践力を高める。
	「入学者の受入れに関する方針」（アドミッション・ポリシー）	1　「夢探し！夢づくり！！そして、夢のゴールへ！！！」のキーワードのもと、夢の実現を目指す生徒。 2　現代社会を生きるための実践的で幅広い知識・技能の習得に努める生徒。 3　柔軟な思考力・判断力・表現力の習得に努める生徒。 4　多様な考えを受容し，協働して課題解決に努める生徒。

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
教	国語	基礎学力の向上に努める。	・教科書および文法書、便覧等を活用し、古典についての基本的な知識を身につけさせる。	B	A	・３年間で学力格差が極めて大きくなる傾向があるので、下位層の生徒の学力を伸ばす工夫が必要である。 ・古典が苦手な生徒が多く、基礎事項の
			・教科書および参考書等を活し、読解に必要な概念や語彙を身につけさせる。	A		
		受験に対応できる学力を涵養する。	・授業内容を精選し、論理的思考力に裏付けられた応用力を身につけ、多様化する入試に対応する力を培う。	A		
			・新傾向に対応した問題演習を反復し、ICT を活用しながら実践的な国語力を伸ばす。	A		
			・様々な言語活動をとおして、実社会において役立つ表現力を養う。	B		
		小論文を書く力を育成する。	・様々な文章を批判的に読むことで、思考力を養う。 ・論理的な思考をもとに、的確に表現する方法を身に着けさせる。	A		

科		家庭学習習慣の定着を図る。	・自学に対応した課題を実施し、物事を深く探求する力を養う。	A		徹底を図る取り組みが必要である。
	地歴公民	学力の向上を図る。	・受験学力養成のため定期試験を工夫し、解説を通して理解を深めさせる。また、職員自らが受験問題にあたり、傾向や難易度を把握する。	A	A	基礎学力を定着させるため、家庭学習を習慣づける。また、受験対応の学力養成に力を入れる。主権者教育を取り入れ、主体的態度を育成する。
			・生徒の希望や状況に応じた課題を示し、ICT を活用しながら個別の指導を行う。	A		
		家庭学習習慣の定着を図る。	・効果的な課題提示を工夫・実践し、家庭学習の定着を図る。	A		
		現代社会の諸問題との関連性を考えさせる。	・資料やデータを多角的に分析して、視野の拡大や異なる考えに対する柔軟性を涵養する。	A		
			・主権者教育を授業の中に取り入れ、生徒の主体的、実践的態度を育成する。	B		
	数学	学力の向上。（基礎・基本的な知識・技能の確実な修得／思考力・応用力の育成）	・生徒の実態に応じた指導計画と指導内容・方法の工夫改善を図る。	A	A	・観点別学習評価の研究を継続する。 ・授業内での個人端末の利用機会をさらに増やし、ICT の活用の仕方を共有できるようにする。 ・課題の評価の仕方を精度、頻度等も含め、検討したい。 ・「学びの個別最適化」のシステムの確立を図る。
			・教科書準拠問題集や小テスト等を活用して、基礎・基本の確実な定着を図る。	A		
			・問題演習の時間を十分に確保し、 入試問題に対応できる論理的思考力・応用力を涵養する。	A		
			・課外（早朝・放課後）や添削等を実施し、個に応じた指導・支援の充実を図る。	A		
		表現力・論理力の育成。	・言語環境を整え、ICT を活用しながら活動の充実を図る。	B		
		家庭学習習慣の確立。	・定期的に課題の提出を課すとともに、 点検及び事後指導を徹底する。	B		
	理科	学力の向上。	・基礎的な知識を確実に習得し、さらに応用的な内容についてもしっかりと理解できるような授業を展開し、学力向上を図る。	A	A	実験・観察・シミュレーション等を通して思考力・判断力・表現力を育成し，自ら考える姿勢と基礎学力の定着を図る。また，家庭学習の習慣化のため、引き続き計画的な課題提供とフォローを行う。
		実験・観察を通して自然に対する関心や探究心を高める。	・共通テストや個別試験等に出題された実験内容を、各科目で検討して考察方法などを理解させるとともに、授業内での実験・観察を通して自然観を身につけさせる。	A		
		家庭学習の習慣化。	・定期的な課題を提供し、自学自習による課題提出を通して、ICT を活用しながら家庭学習の習慣化を図る。	A		
		入試制度の研究。	・共通テストに対応できる学力を身につけさせるために、入試制度の研究を進める。	A		
教	保健	健康安全について理解を深め日常生活で生かせるようにする。	・ICT を活用した視聴覚教材・資料等を効果的に活用し、学習の理解度を高める。 ・グループワークを取り入れ、言語活動を活発にさせる。	A	A	ICT 活用で種目ごとの生徒の課題を明確、共有することができた。さらに生徒の興味関心を効果的に惹きつけるこ
		体力の向上を図る。	・体力テストの結果から自己の体力を把握させ、体力の向上を目指し年間を通して継続的に体力トレーニングを行う。	B		

科	体育	運動技能を高め運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにする。	・基礎的技能を学ぶなかで課題を設定させ、練習に取り組みゲームを楽しむ。 ・ICT を活用するなど、お互いに教えあう活動を取り入れ、助け合いながら運動技能向上を図る。	A		とができた。次年度も保健、体育の両科目で ICT を活用した授業展開を実施する。また観点別評価内容の充実を検討する。
	芸術	学びの意義を実感できる学習活動の充実。	・美的情操を培う各科目における教材、指導方法の精選。	A	A	言語能力や感性を高めるためのグループワークや ICT を活用した授業展開の工夫、表現の方法をより一層充実させる。
		表現と鑑賞の能力を高める。	・ICT を活用しながら鑑賞授業を充実させ、鑑賞で得た知識を表現に生かし有機的に関連付けながら、両面の学習活動を進行し、芸術表現に必要な技能を身に付けさせる。	A		
		芸術的感性と言語能力の向上。	・生徒同士で積極的に意見を交換する場面を設定し、活発な言語活動を行う。感性を高めあい、お互いに創意工夫しよりよいものを創る姿勢を育む。	B		
	英語	４技能の習得を図りながら学力の向上を目指す。	・生徒の実態に応じた指導計画の改善と工夫を図る。	A	A	・来年度も基礎学力を定着し、大学入試に対応できるまでの力を育成することに尽力したい。 ・言語活動をさらに充実させ、英語を「使いながら身につける」ことを実践していきたい。
			・大学入学共通テストに対応するための技能を育成する工夫を図る。	A		
			・授業内のコミュニケーション活動を充実させる。	B		
			・家庭学習、休業中の課題にサイドリーダー等を活用して多読の指導を行う。教材を精選し、様々な話題に触れさせることで視野の拡大に努める。	A		
			・小テスト・考査等を利用して語彙・文法・構文の定着を図り、表現力を高める一助とする。	A		
			・英検等の資格検定にも積極的に取り組ませ、意識を高める。	A		
			・授業における ICT 活用方法を模索する。	A		
		家庭学習習慣の定着。	・学習課題の提出・点検及び授業の予習の徹底を図る。	A		
			・学習が不十分な生徒については補習等で対応する。	A		
	家庭	自立した生活者に必要な基礎的・基本的な知識と技能を育成する。	・実験や実習、観察や調査、演習などの体験的な学習活動を計画的に実施する。	A	A	・生徒が ICT を活用し、主体的・対話的に学習する場面を設定する。 ・生徒が学んだことを実生活に活かすことができるような課題を設定する。
			・筆記試験や技能試験を計画的に実施する。	A		
		生涯を見通して生活の課題を解決する力を育成する。 生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を育成する。	・生徒が ICT を活用しながら主体的・対話的に学習する場面を効果的に設定する。	A		
			・生徒が考察したことを科学的な根拠や理由を明確にして論理的に表現する場面を効果的に設定する。	A		
			・ホームプロジェクト等家庭での実践的な学習活動の充実を図る。	A		
			・学校家庭クラブ活動等校内や地域での実践的な学習活動の充実を図る。	A		

情報	情報モラルと情報に対する自己責任の育成を図る。	・教科書や情報モラル副読本、新聞記事やネット上のニュース等を教材にして、情報モラル、情報セキュリティ等、情報社会において求められる基本的な心構えを身につけさせる。	A	A	・情報Ⅰの進め方が、うまくつかめていない。共通テストの出題傾向に合わせて、授業を工夫して進めていきたい。
	情報を主体的に活用する能力を育成する。	・コンピュータや情報通信ネットワークなどの活用を通して、情報を適切に収集・処理するための基礎的な知識と技能を習得させる。	A		
		・各種ソフトを使用しながら、ICT 機器をコミュニケーションツールとして活用する能力の育成を図る。	A		
教　務	教育課程の適切な運営と授業の充実を図る。	・現行の学習指導要領を適正に運用するとともに、新学習指導要領に基づく本校の特色を生かした新しい教育課程を編成する。	A	A	・新しい教育課程を実施し、検証する。 ・教員の授業力・学習指導力の向上のために、今後さらに相互授業公開等を活発に行う。 ・「総合的な探究の時間」については、３年間を適じた指導計画のもとに、学校全体で取り組む。 ・感染症対策の中、各学年・各部・各教科と綿密な連携をとり、学校運営を円滑に行うために、詳細に検討した計画を立てる必要がある。 ・学校評価アンケートの結果を各文章・学年で反映させ、今後の教育活動に生かす。 ・中学生対象学校説明会、授業公開や、ホームページ等による情報発信を、感染症対策をふまえ、実施する。 ・教育効果の高い学習者用端末の活用方法を研究し、実践する。 ・校務に関する業務効率化のため、校務の見直しを行い、反映させる。
		・教員相互の授業公開を通して、授業力の向上に努めるとともに、共通テスト、新入試に対応できるような授業への改善を図る。	B		
		・各学年、各教科との連絡を密にし、授業時間の確保に最大限努める。	A		
		・各教科においてシラバスを作成し、その活用を図る。	B		
		・「総合的な探究の時間」の導入に伴い、「探究学習」について研究を行い、ICT を活用しながら各学年と連携して実施する。	A		
		・人権教育や特別支援教育に関する啓発を推進する。	A		
	適切な行事計画を作成し、教育活動の円滑な実施に努める。	・学習と部活動・学校行事とのバランスを考慮し、学校行事の精選を進め、土曜課外を含めて教育効果の高い年間行事計画を作成する。	A		
		・学校評価の結果から問題点を検証し、より良い教育活動の改善を図る。	A		
	計画的・広域的な広報活動を推進する。	・中学生対象の学校説明会において、動画等を活用し、中学生・保護者にわかりやすく充実した説明会を実施する。	A		
		・いばらき教育の日の公開授業や各種説明会を通じて、教育内容の広報に努める。	A		
	事務処理の効率化を図る。	・情報部と連携し、校務運営システムを適切に活用し、成績処理、成績一覧表・通知票等の処理を円滑かつ確実に行う。	A		
		・奨学金等に関する広報活動・事務処理を的確に行う。	A		
	個々の生徒の能力・適性に応じた進路指導を通して、一人ひとりの生徒の進路希望の実現を図る。	・進路希望調査、進路・学習に関する意識調査を実施し、生徒の現況を把握するとともに問題点の検討とその改善策を講じて、各学年に対して適切な進路・学習指導をサポートする。	B		各種データを詳細に分析し､現状に適合した進路指導を展開する必要がある。
		・個々の生徒の進路希望や能力を把握して適切な進路指導につなげられるよう、時期に応じた個別面談・指導の実施を促す。	A		

進路指導		・公開講座やオープンキャンパス等の情報を提供して参加を促し、大学や学問研究に対する早期の意識付けを行う。	A	A	
	学年との連携協力の下、進路に関する行事を計画・実施し、生徒の進路意識の高揚とキャリア教育の推進を図る。	・３年間を見通した行事を計画し、「キャリアガイダンス」、「ワンデーカレッジ」等の進路関連行事を有意義なものとし、キャリア教育を推進する。	A		
		・生徒・保護者対象の進路講演会を適切な時期に実施し、ICT を活用しながら最新の有用な進路情報を提供する。	A		
	生徒一人ひとりの学力の伸長を図るとともに学年との連携協力の下、入試や模試の分析を行い、適切な進路情報を提供する。	・「進路ナビゲーター」や「進路便り」を発行し、各学年の適切な進路指導をサポートする。	B		
		・多様な入試制度に対応するために、面接・小論文等の対策について学年を越えた指導を充実させる。	A		
		・家庭学習時間の確保のため、各学年や各校務分掌等との連携を図りながら方策を検討する。	A		
		・各学年と連携しながら課外授業（平日・土曜日・長期休業中等）、模擬試験を計画・実施して、一層の学力向上を図る。	A		
		・多様な入試制度を整理・分析し、生徒との面談に活用できる適切な進路情報を提供する。	A		
		・入試結果・模試結果を多面的に分析し、各学年や各教科の学習指導・進路指導の改善に寄与する。	A		
		・各予備校等の教員対象の授業・研修情報を提供し、教員の授業力、受験指導力の向上に寄与する。	A		
		・教員対象の進路研修会を実施し、今後の入試制度の変化に対応するために教職員全体で研究を進める。	A		
		・高大接続改革及び大学入学共通テスト等に関する研究を継続し、保護者・生徒、教職員への情報提供を適宜行う。	A		
生徒指導	規律ある生活態度や社会規範を順守する態度を育てる指導を、全教職員の共通理解のもとで推進する。	・ＨＲや特別活動、学校行事、授業等様々な場面においてまずは挨拶と身だしなみを意識して指導し、基本的生活習慣を身に付けさせる。	A	A	・服装の指導に関しては、学年間で指導の差異が出ないよう、指導部主導で指導の仕方を徹底する必要がある。 ・自転車の乗車マナーに関する地域の苦情が多いので、日頃から規範意識や公共心を育む指導を工夫
		・着こなし強化週間やさわやかマナーアップ運動等を通して、その意義を十分理解させ、生徒自ら規範意識の向上を図れるようにする。	A		
	安全への意識を高め指導を推進する。	・校内の決まり事や公共マナーが守られているか、常にチェックする意識を持つ。	A		
	教育相談体制の充実を図る。	・交通安全週間、長期休業明け交通安全指導時には、改めて交通安全の意識を持たせるように努める。	A		
	教育相談体制の充実を図	・警察や関係機関との連携を密にし、不審者情報や交通事故情報等を迅速に提供する。また地域の方々から信頼を得られるように交通安全及び防犯意識を高める。	A		

	る。	・カウンセラーや環境保健部と連携し、生徒・保護者・教職員の要望を反映しカウンセリング活動の充実を図る。	A		する必要がある。
		・ICT を活用して各学年からの生徒指導上の問題点や意見をとりまとめ、生徒指導の充実を図る。	A		
		・研修会や情報交換会の内容など生徒指導に関する内容を提供する。 ・携帯電話・インターネットの安全な利用について周知させる。	B		
特別活動	生徒の豊かで、充実した高校生活のために、以下の事項を学年や他分掌と協力して実施する。 今後の部活動のあり方を検討する。	・運動部活動の地域移行が進む中で、それに対応できる環境を整えておく。また、生徒や顧問にとってより良い今後の部活動のあり方を検討していく。	A	A	**・職員全員が何らかの部活動の顧問に充てているが、必ずしも経験者とは限らない中、顧問がどのように部活動の生徒と関わっていくか、検討が必要である。** ・部活動の運営方針が改定された上で、どのように運営していくのか検討が必要である。 ・今年度は HR 活動で体育館等の施設を使用する機会がほとんどなく、調整することもなかった。 ・通常、体育館で行う壮行会や伝達表彰は対面ではなかったが、オンラインで実施できた。 **・全国大会、関東大会等に出場した部活動を称えるための手立てを検討していく。** **・コロナの影響で様々な学校行事が中止や縮小、延期をしてきたが、今後コロナ前の行事実施に戻せるような検討をしていきたい。**
		・部活動環境の改善に向けて、各部からの要望を集約し、予算要求をしていく。	B		
		・部活動の学校外指導者を積極的に活用出来るように要望は続けていく。	A		
		・各部の顧問と協力して、部室の管理や清掃の徹底を図る。	A		
	HR 活動の充実。	・充実したＨＲ活動が実施できるよう、各学年との協力関係を築いていく。	B		
		・ＨＲにおいて「キャリア・パスポート」を活用した記録を用いた話し合いや意思決定により、生徒一人一人のキャリカ形成に努める。	B		
		・体育館及び他の施設の使用の調整を図る。	B		
	特別活動の記録や広報活動の充実を図る。	・壮行会・伝達表彰等を通して、生徒の活動の成果を積極的に発信していく。	A		
		・部活動や行事の記録及び写真を保存し、広報活動や今後の活動に役立てる。	A		
		・生徒会誌の記事の内容の充実を図る。	A		
		・部活動の活動状況や成果をホームページ等で積極的に公開していく。	B		
	特活行事の運営方式・日程・内容等の検討を行う。	・各種行事の日程や実施方法は随時検討し、より充実した学校行事を目指す。	A		
		・定期的に生徒会役員との打ち合わせを実施し、生徒会活動の活性化を図るとともに、行事の企画力の養成を図る。	A		
		・生徒会活動の年間計画を作成し、ICT を活用しながら、より充実した内容とするための方策を講じる。	A		
図書館	図書館の利用促進と委員会活動の充実を図る。	・図書を充実させる。	A	A	図書委員の活動を活発に行い、図書館の利用を推進する。また、蔵書点検を行い所蔵図書の管理体制を整えていきたい。更に、図書館の学習センターとしての機能を高め、「探究学習」を行うことのできる図書館づくりをしたい。
		・生徒による委員会活動を活性化し、学校図書館運営に主体的に参加させる。	A		
	図書館の機能充実を図る。	・土浦市立図書館との連携を強化する。	A		
		・ICT を活用しながら「探究活動」を行うことができる図書館にする。	B		
	館内の環境整備を図る。	・本の整理整頓 ・本の廃棄 ・蔵書点検	A		

環境保健	学習環境の整備。	・清掃徹底週間を適宜実施し、特にトイレと手洗い場の清掃徹底を図る。	B	A	・清掃徹底週間の実施 ・換気の徹底 ・健康観察の入力率の向上 ・円滑な健康診断の実施 ・生徒に対する保健教育の充実 ・避難経路の周知徹底 ・継続した環境整備の意識を高められるような声かけ
		・教室の空気環境改善のため、天窓+対角線上の窓の開放と壁掛け扇風機による空気の撹拌を促す。	A		
		・エアコン、ストーブの使用上の注意事項を守れるよう指導する。	A		
	疾病予防と健康管理能力の育成。	・疾病予防教育の充実と、欠席状況を迅速に把握し、ICT を活用しながら感染症蔓延防止に取り組む。（健康チェックの入力の徹底）	A		
		・感染症対策をしながら、各種検診・検査を合理的かつ円滑な進行できるよう工夫する。	A		
		・保健室利用状況の円滑な伝達。	A		
		・１年生に対する歯の健康指導と性教育を充実させる。（感染予防のため、オンラインの利用も検討する。）	B		
	防災意識の向上と地域との連携。	・避難経路を年度初めに周知徹底する。また、改善すべき点を検討し、見直す。	A		
		・避難態度を一層向上させ、安全かつ迅速な避難誘導方法を工夫する。	A		
		・避難訓練に於いて、感染症対策をしながら、生徒と周辺住民とが協力し合える訓練形態を工夫する。	B		
		・職員緊急連絡網を随時更新する。	B		
渉　外	家庭、地域、学校との協力体制をさらに強化する。	・ＰＴＡ評議員の活動を活発化し、ICT を活用しながら、生徒指導部と連携して、校外指導を実施する。	A	A	新型コロナウイルス感染防止の観点から実施できなかったＰＴＡ行事が多かったが、ＰＴＡ会報発行、ＰＴＡ保護者対象大学説明会等をいろいろと工夫して実施した。来年度の各ＰＴＡ行事の実施についても十分な検討が必要である。
		・土浦市高Ｐ連と連携し、早朝街頭指導、年末街頭指導へ積極的に参加する。	B		
	保護者に学校の情報を積極的に提供し、教育活動への理解と協力を図る。	・ＰＴＡ総会への出席者数を増加させる。	B		
		・支部会・研修視察等のＰＴＡ主催行事の充実を図り、参加者を増加させる。	A		
		・ＰＴＡ評議員を実行委員として、あゆな祭のバザーへ保護者の積極的な参加を図る。	B		
	尚絅同窓会、ＰＴＡＯＢ会に本校の情報を積極的に提供し、学校への関心を高め、教育活動を積極的な後援の推進を図る。	・土浦二高ＰＴＡ広報紙「であい」を年２回発行し、本校の教育活動を良く理解し、積極的な後援の推進を図る。	A		
		・尚絅同窓会及びＰＴＡＯＢ会と連携を密にし、積極的に学校への後援体制の推進を図る。	B		
情　報	情報発信の充実。	・ホームページの充実と迅速な更新に努め、広く情報を発信する。	A	A	・校内 PC およびﾈｯﾄﾜｰｸの充実，円滑な運用に努める。(PC 機器の充実，ICT 機器の充実・活用，校務支援ｼｽﾃﾑ等) ・学習端末を利用した ICT 学習の充実
	校務支援システムの安定した運用。	・教務部との連携を図り、校務支援システムの円滑な運用を行う。 ・校内ネットワークの安定した運用管理と保守を行う。	A		
	校内ネットワークの整備とセキュリティ管理。	・個人情報の保護と情報管理の徹底を図り、セキュリティ向上に努める。 ・情報機器の管理と整備を進める。	A		
	学習端末の導入活用。	・電子黒板等 ICT の活用の補助。 ・新１年生から導入の学習端末の活用の補助。	A		

事　務	施設設備の安全確保と学習環境の整備。	・校舎内外の巡回を行い施設設備の使用目的、使用状況を多面的に把握して、教育環境の適正な整備を行う。	B	B	物価高騰の影響を受け、少ない予算で効果的な予算執行が求められる。
	予算の効率的・効果的な執行。	・適正な学校運営のため、管理職や教職員等と連携を図、ICT を活用しながら学校予算の効率的・効果的な執行を行う。	B		
１学年	予習、復習の習慣化と家庭学習時間の確保。	・学習時間調査、個人面談の実施。	A	A	・各教科から出される課題全体が把握できるような提示の仕方を考える。 ・文理コース選択のためだけではない、包括的な意味での進路指導の必要性。
		・適切な学習課題の提示、小テストの実施。	B		
		・各種課外の実施、外部英語検定、海外研修等への対策、サポート。	A		
	新教育課程、入試改革への対応。	・主体的、協働的な「探究」を実現する ICT を活用した授業づくり。	A		
		・自分の考えを可視化し、論理的にわかりやすく伝える力の育成。	A		
		・「探究」含め、あらゆる授業おけるＩＣＴ（タブレット等）の積極的活用。	A		
		・活動履歴の作成等、新方式の入試に対するサポート。	B		
	確かな職業観の育成と適切な文理コース分け。	・個人面談、保護者面談の充実。	A		
		・各種講演会、説明会、各種課外の実施。	A		
		・各種ガイダンス、セミナー、オープンキャンパス等への積極的参加の推奨。	B		
		・校外模擬試験の実施と結果分析、事後の有効活用。	A		
	高校生らしい服装容儀の徹底。	・服装、頭髪検査の実施、及び日々の学校生活、授業の中での指導、説諭。	B		
	規範意識の高揚と道徳的実践力の育成。	・道徳の授業やＨＲ、清掃活動等を通しての、道徳的な判断力や態度の育成。	B		
	交通安全指導の充実。	・生徒指導部との連携による校外指導の実施。	A		
		・ＨＲ活動等を通じた交通安全指導の徹底。	A		
	心身の健康管理及び教育相談の充実。	・ＳＣ、養護教諭、保護者等との連携強化。	A		
２学年	既習内容の確実な定着、教科の特性に応じた適正な予習復習の習慣化と家庭学習時間の確保。	・個人面談の実施、小テストの実施。	A	A	・学習時間の確保と学習習慣の確立・定着、適切な志望校決定と進路実現に向けた、個別面談等における効果的な指導方法 ・模擬試験授業日実施に伴う、授業時間の確保、授業内容の充実、課外等の有効的な活用 ・課題提示・課外等における、成績層別指導
		・ICT を活用した適切な学習課題の提示。	A		
		・小論文指導、英語外部検定対策の継続。	A		
		・土曜課外・夏季課外の実施、充実。	A		
	進路目標の具体化。	・オープンキャンパスの積極的活用、探究活動の実施。	A		
		・各種講演会・説明会・ワンデーカレッジの実施。	A		
		・校外模擬試験の実施と結果分析、事後の有効活用。	A		
	高校生らしい服装容儀の徹底と規範意識の高揚。	・服装・頭髪検査の実施及び日常生活での注意・指導。	A		
	交通安全指導の充実。	・生徒指導部との連携による校外指導の実施。	A		

		・ＨＲ活動等を通じた交通安全指導の徹底。	A		の試み ・原因のわからない不安から登校できなくなっている生徒に対する継続的、かつ適切な支援
	心身の健康管理。	・ＳＣ、養護教諭、保護者などとの連携強化。	A		
		・生徒個々の問題の早期発見、及び適切な支援。			
３学年	家庭学習時間の確保。（平日５時間）	・個人面談の実施（年６回以上）。	A	A	・模擬試験のデータを活用した、志望校合格に向けた学習への取組。 ・受験直前期に悩みを抱えた生徒への心のケア。 ・セーターで廊下を歩く生徒が多くなってしまった。
		・進路講演会、分析会、説明会の実施による動機付け。	A		
	進路指導の充実。	・コースに適した授業内容の充実。	A		
		・進路指導室、資料室、ICT 環境等の活用の促進。	A		
	国公立大学、難関私立大学への合格者増を目指した指導の工夫及び充実。	・課外の充実（受験対応の講座の実施）。	A		
		・校外模擬試験の実施とその有効活用。	A		
	最終学年にふさわしい服装容儀・あいさつの徹底。	・服装、頭髪検査の実施及び日常生活での注意、指導。	B		
	交通安全指導の充実。	・生徒指導部との連携による校外指導の実施。	A		
	心身の健康管理及び教育相談の充実。	・ＳＣ、養護教諭、保護者などとの連携強化。	A		
いじめ防止	いじめの未然防止。	・道徳以外の教科でも相互指導力・協同性・同僚性をポイントに置いた授業を実践する。	B	A	年３回のいじめに関するアンケートを Google フォームで実施することがで絵きた。出てきた案件に対しては、担任だけでなく、学年、生徒指導部、管理職などチームで対処することができた。常に「いじめは必ず起こる」という認識のもと、未然防止・早期発見を心がけている。
		・ＨＲ、学校行事、特別活動の場を利用し、自己存在感を養う。	A		
		・生徒が教職員と相談しやすい関係を構築する。	A		
		・情報モラル教育を推進する。	A		
		・いじめは必ず起こるという認識のもと、生徒の観察を怠らず、決してサインを見逃さないように努める。	A		
	いじめの早期発見。	・ICT を活用しながら年間３回のアンケートを実施する。	A		
		・生徒や保護者が学校に相談できる関係を構築する。	A		
		・複数の相談窓口を生徒や保護者に周知する。	B		
	いじめの早期解消。	・定期的に生徒の様子等の報告会を実施する。	A		
		・いじめを認知した場合の連絡系統を確認しておく。	A		
		・いじめを認知した場合まずは実態把握に努め、速やかにケース会議を開き対応を検討する。	A		
		・インターネットを通じて行われるいじめにも適切に対処する。	B		
		・保護者と密接に連絡を取り合う。	A		
	関係機関との連携。	・地域の協力を得ていじめの対応等をする。	B		
		・警察、児童相談所、法務局等の関係機関と連携する。	B		

		・学校以外の場で起きたいじめに適切に対応する。	B		
		・実践的研修を行う職員研修を設定する。	A		
	教職員研修。	・事例研究を通して、いじめの対応方法の共通理解を図る。	A		
		・インターネット環境等に関する研修を計画する。	A		

※評価規準：　A:十分達成できた　B:達成できた　C:普通　D:やや不十分だった　E:不十分だった